

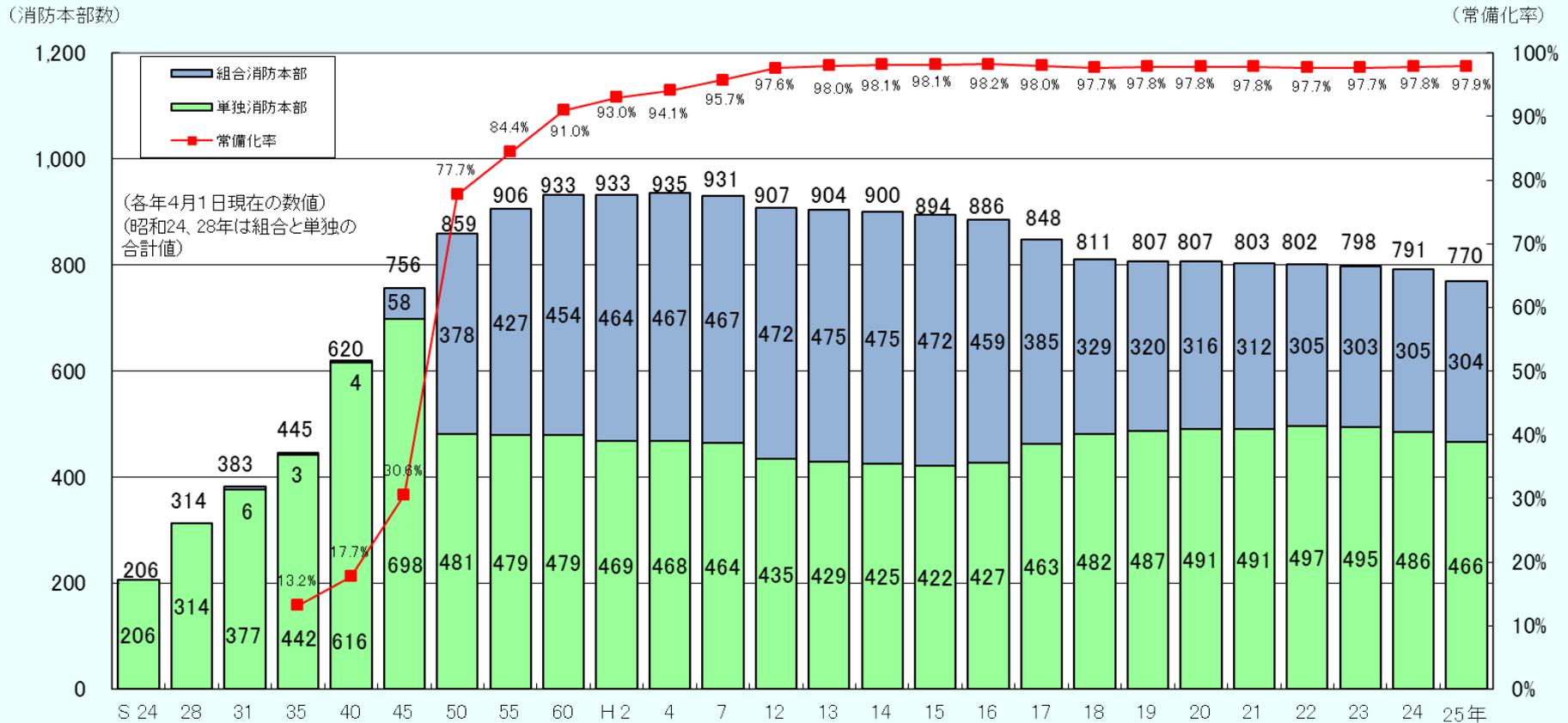
消防の現況について

～消防本部数の推移～

資料1

昭和23年3月7日に消防組織法が施行されて以来、「市町村消防の原則」が消防制度の根幹として維持されており、消防本部及び消防署の設置が進められた。

全国の消防本部数は、平成3年に過去最多の936本部まで増加したが、以降、市町村合併や消防の広域化により減少し、平成25年7月1日現在の消防本部数は767本部、消防本部や消防署を設置していない非常備町村数は36町村となっている。

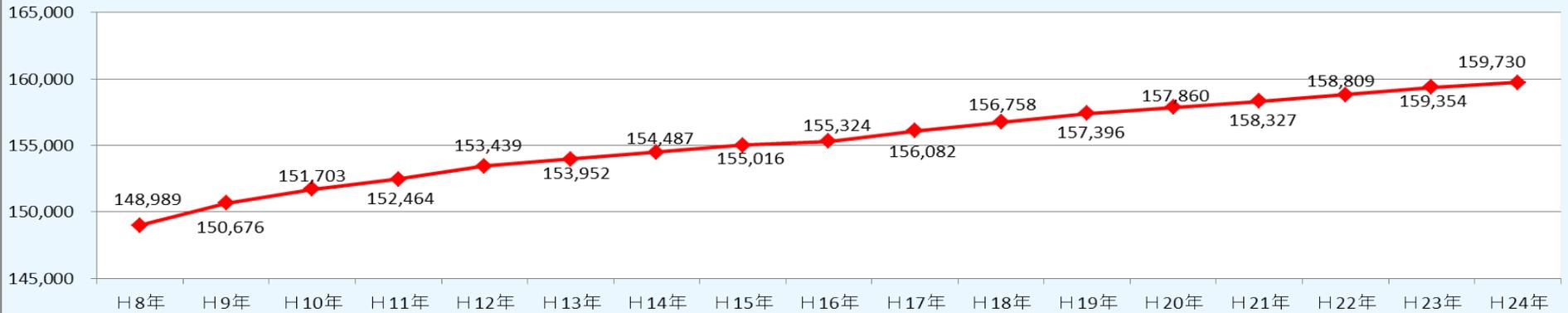


消防の現況について ～消防職団員数の推移～

平成24年4月1日現在、消防職員数は15万9,730人であり、年々増加している。一方、消防団員数は87万4,193人であり、年々減少している。また、消防団員については、被雇用者団員の増加や平均年齢の上昇など課題を抱える。

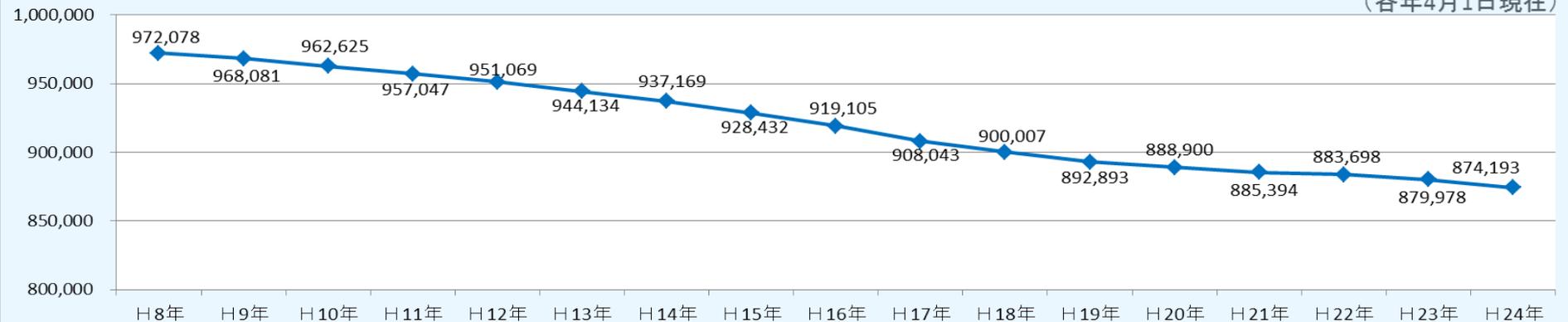
消防職員

(各年4月1日現在)



消防団員

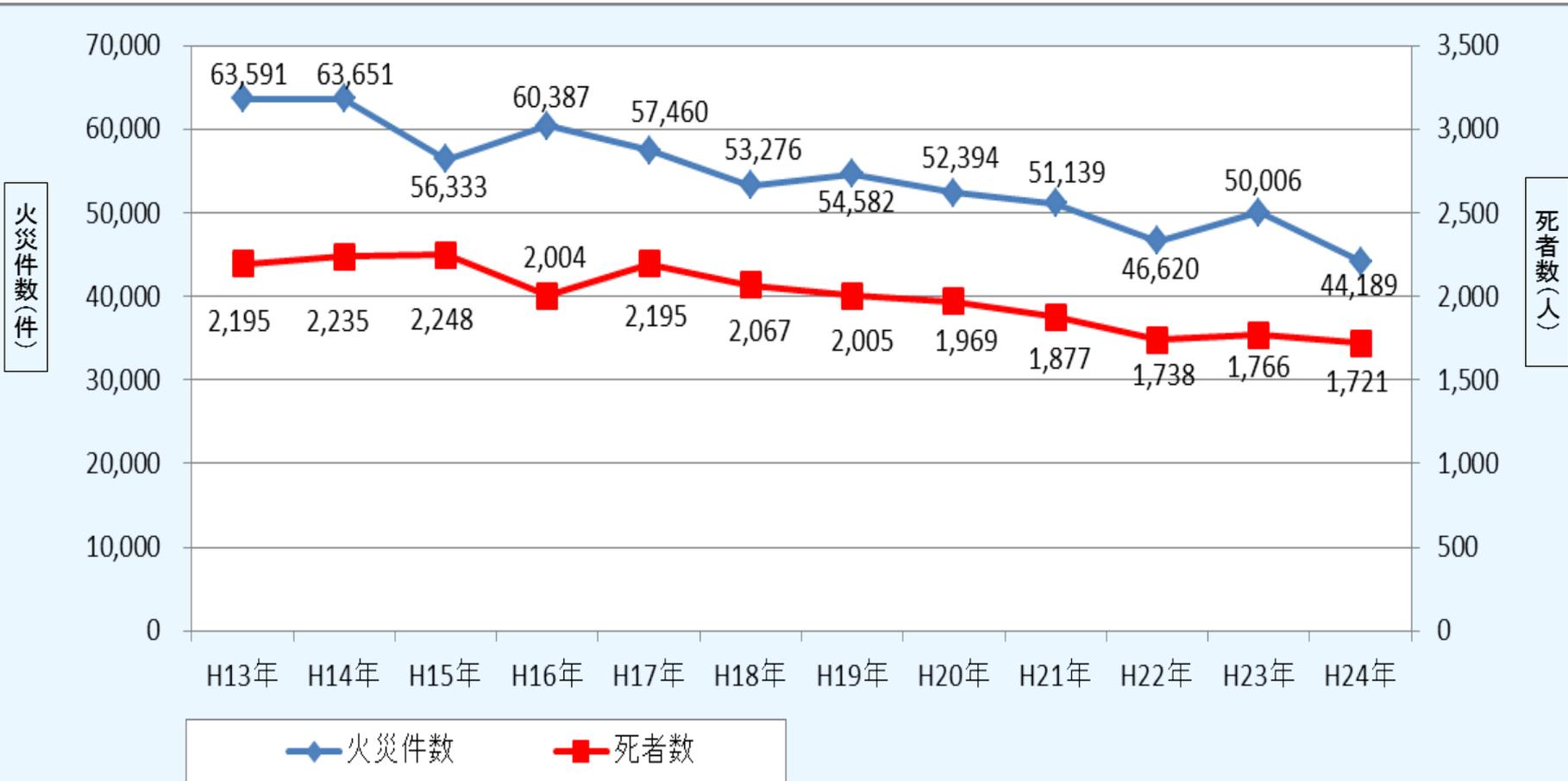
(各年4月1日現在)



消防の現況について ～火災件数の推移～

近年の出火件数をみると、6万3,651件を記録した平成14年以降おおむね減少傾向となっており、平成24年の出火件数は平成13年の69.5%となっている。

また、火災による死者数も、2,248人を記録した平成15年以降おおむね減少傾向にあり、平成24年の火災による死者数は平成13年の78.4%となっている



消防の現況について

～救急件数の推移と将来推計～

救急出動件数は年々増加し、平成24年中は過去最高の580万2,039件（速報値）に達した。平成16年以降9年連続で500万件を超えており、救急出動件数は、10年前と比較して30%以上増加している。

今後、わが国の人口は減少に推移するにもかかわらず、救急出動件数と搬送人員数についてはH35年頃まで増加すると予想される。救急出動件数はH24年以降も徐々に上昇し続け、H35年～H36年頃に約620万件に達し、その後、減少に向かうと予測されている。

